

新橋地区
「コミュニティしんばし食堂」

地域一丸となって こどもたちが安心して過ごせる居場所を
つくる



「コミュニティしんばし食堂」のスタッフの皆さん

■こどもたちが安心して過ごせる場所をつくりたい

様々な事情で、一人で食事をするこどもたちや高齢者の方々を対象に、「夕食をみんなで一緒に食べよう」「夕方に一人で過ごすこどもたちが、安心して過ごせる場所をつくりたい」そんな地域住民の思いから、2016年8月に「コミュニティしんばし食堂」がスタートしました。最初の一声をかけた、新橋地区社会福祉協議会会長の舩越さん、そして運営しているスタッフのみなさんからお話をうかがいました。

以前からこどもの居場所づくりなど、様々な活動に携わってきた船越さんは、多くの子どもたちを見てきた中で、家庭に課題を抱えている子どもや、夕方に居場所のない子どもがいることを知り、何とかしたいという思いから、ひとりで夕食を食べている子どもたちのための食堂を始めることにしました。2009年から平日の昼間に、小さなお子さんがいるお母さんたちの息抜きや昼間一人で過ごす高齢者の居場所として、「カレーの日」という食事会をすでにやっていたことから、夜にも地域のみなさんが集まって来ることのできる地域の食堂をつくることにしました。



場所は新橋連合自治会館

■地域のみなさんの理解と応援に感謝

スタッフは全員地域住民のみなさん。準備は開店3時間前から始まり、その日届けられた野菜からメニューを考えます。

3カ月分のメインメニューはあらかじめ決めています。この取組を知った地元の農家さんや農協、家庭で野菜を育てている近所の住民の方から、無償でたくさんの野菜を提供していただき、そこからサブメニューを考えています。

時期的に同じ野菜がたくさん届けられることもあり、全員でアイデアを出し合って提供された食材を無駄にしないよう調理しているそうです。

地域の皆さんの理解と応援があって、継続的に活動を続けることができています。

■何かあったら声をかけ合える関係をつくる

受付開始時間の 15 時になると、続々と子どもたちが集まってきます。食事前の時間帯には、学生さんや地域のボランティアのみなさんが、学校の宿題をみてるなどの学習支援も行っています。親子を支える場であり、広くみんなが集まれる場、何より子どもたちがこどもらしく過ごせる場にする事で、声をあげづらい子どもたちと何かあったら声をかけ合える関係をつくりながら見守っています。

「食事をする事が目的ではなく、コミュニティを大切にする場にしたい」と話す船越さん。子どもたちから一人暮らしの高齢者、子育て中のお母さん、近所に住んでいるみなさんなど、毎回多世代の参加者で賑わっています。



この日のメニューは牛丼。茄子の漬物やジャガイモ、リンゴは地域のみなさんから届けられたもの。頂き物でもこんな豪華に。



提供するものは全て手作り



手作りの「のれん」



受付の様子



17時を過ぎると、会館内は賑やかに

【活動日時】

■毎月第3 金曜日 15時半～19 時

参加費はこども 100 円、大人 200 円（当日持参）

新橋町に住んでいる方であれば、申込不要でだれでも参加できます。

■場所：新橋連合自治会館

■新橋の風物詩「アッテ祭り」

「誘いアッテ、触れアッテ、知りアッテ、理解しアッテ、助けアッテ」、地域の親睦・連携を深めよう、ということで命名されたアッテ祭りは、今年で 25 回目を迎えました。



アッテ祭りの様子

泉区各地で行われている「ふれあい祭り」の先駆けとなった「アッテ祭り」の会場には、手作りの仮設ステージが設けられ、和太鼓、ダンス、吹奏楽、フラメンコ、太鼓の演奏など、地域の皆さん、鳩の森愛の詩保育園、新橋小学校、いずみ野中学校の生徒などが、次々と出演します。

「今では新橋の風物詩のアッテ祭りを通じて、多くの方に地域行事を知ってもらい、地域を盛り上げてほしい」と笑顔で話す新橋連合自治会相談役の大貫芳夫さん。同じ地

域に住みながらも、一人ひとりが抱える生活課題は様々です。ひとりでは解決できないことも、地域の中で色々な活動をしている人が、地区社会福祉協議会の取組やアツテ祭りを通じてお互いに知り合い、つながり、解決に向けた新しい取組が生まれることを願っています。

泉区事例集 2018
連長インタビュー



新橋連合自治会 あいはら しげゆき
相原 重幸 会長

取材：コミュニティしんばし食堂、アッテ祭り

「ここに来れば、誰かがいる」

新橋連合自治会館は、地域の方にそういうイメージを持ってもらえていると思います。それは、地域のイベントを自治会館やその周辺で実施しているからです。

今回の事例集で取り上げた「コミュニティしんばし食堂」、そして今では有名になった新橋の風物詩「アッテ祭り」などもそうです。

長年の活動の成果もあり、地元の方に愛される場所になりました。

この場所に集う子どもたちの輝く瞳を見るだけで、まちの未来は明るいなど感じ嬉しい気持ちになります。